

シンフォニー SPRING

こおりやま男女共同参画情報紙
symphony spring 2012 vol.36

vol. 36



特集

震災・復興と
男女共同参画
P2・3

- さんかく教室のお知らせ P4
- 男女共同参画推進週間のお知らせ P5
- 第10回郡山市男女共同参画フェスティバル報告 P6・7
- 相談窓口・無料電話相談のご案内 P8

シンフォニー(交響曲)には、みんなの声を響き合わせたいという想いが込められています。

シンフォニー 2012 spring vol.36
こおりやま男女共同参画情報紙

編集・発行/郡山市男女共同参画課
〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号 TEL:024-924-3351/FAX:024-921-1340

相談窓口のご案内

人権や男女共同参画に関する相談窓口をご案内します。

平成24年度版

相談内容	窓口	電話番号
人権全般に関すること	福島地方法務局郡山支局「人権相談」	0570-003-110
女性の人権に関すること	法務省人権擁護局「女性の人権ホットライン」	0570-070-810
人権・男女共同参画、セクハラに関すること	福島労働局雇用均等室	024-536-4609
パワハラに関すること	郡山労働基準監督署 監督課	024-922-1370
警察相談	郡山警察署 警務課「警察安全相談」	024-922-2800
	郡山北警察署 警務課 総合相談係	024-991-0110
女性の安全に関すること	郡山警察署 駅前交番内 女性安全相談所	024-923-0199
犯罪被害者支援に関すること	社団法人ふくしま被害者支援センター	024-533-9600
	郡山市男女共同参画課	024-924-3351
DV・異性問題に関すること	福島県女性のための相談支援センター	024-522-1010
DV・一般相談・健康相談・法律相談	福島県男女共生センター 相談室	0243-23-8320
18歳未満の子どものあらゆる相談(児童虐待を含む)	福島県県中児童相談所	024-935-0611
子どもの養育に関すること、DV・家庭問題など女性の悩みに関すること、児童虐待・教育に関する専門相談	郡山市子ども支援課	024-924-3341
	子ども家庭相談センター(こども館1階)	
不登校・学校生活に関すること	郡山市総合教育支援センターふれあい学級(こども館5階)	024-933-8081
出産・育児・子どもの成長に関すること	郡山市子ども支援課総合窓口(こども館1階)	024-924-2525
子どもやひとり親の手当・医療費に関すること	郡山市子ども支援課給付係(こども館2階)	024-924-2411
ひとり親家庭の方の相談、就業に関すること	郡山市母子福祉センター(総合福祉センター3階)	024-924-2963
障がい福祉に関すること	郡山市障がい福祉課	024-924-2381
高齢者虐待に関すること	郡山市長寿福祉課	024-924-2401
健康増進、栄養改善に関すること	郡山市保健所 地域保健課	024-924-2900
感染症、精神保健福祉、難病に関すること		024-924-2163
消費生活相談・多重債務に関すること	郡山市市民安全課 消費生活センター	024-921-0333
在住外国出身者の生活相談に関すること、国際交流に関する情報提供	郡山市まちづくり政策課 国際交流サロン	024-924-2970
日常生活の困り事・悩み事の相談、各種行政相談	「行政センター所長とのふれあい相談日」(毎月第4水曜日(午前))	各行政センター
市の仕事に対する意見・要望・苦情などや日常生活の困り事・悩み事の相談、法律相談に関すること	郡山市市民協働推進課 市民相談センター	024-924-2155
男女共同参画に関すること、市政の男女共同参画に対する苦情	郡山市男女共同参画課	024-924-3351
男女共同参画・女性の各種悩みに関すること	郡山市男女共同参画センター(さんかくプラザ)	024-924-0900

無料電話相談(フリーダイヤル)

名称	窓口(設置者)	電話番号
「子どもの人権110番」	法務省人権擁護局	0120-007-110
「いじめ110番」	福島県警察本部 警察安全相談室(県民サービス課内)	0120-795-110
「性犯罪被害110番」	福島県警察本部	0120-503-732
「ダイヤルSOS」(教育、いじめ、不登校など)	福島県教育センター	0120-453-141
「福島いじめSOS24」	福島県教育委員会	0120-916-024
「介護保険なんでもダイヤル」	郡山市介護保険課	0120-65-3736

「男女共同参画」を目指す拠点施設

郡山市男女共同参画センター

さんかくプラザ

〒963-8876 郡山市麓山二丁目9番1号
TEL: 024-924-0900/FAX: 024-924-0904
Eメール: sankaku@bunka-manabi.or.jp

さんかくプラザでは、学習や交流、情報収集、相談などができますので、どうぞご利用下さい。

主な施設 研修室・調理実習室・交流室・会議室・和室・集会室

利用時間 午前9時～午後9時

休館日 毎月第3日曜日及び年末年始

この印刷物は、FSC®認証紙を使用しています。

紙へリサイクル可



災害・復興と男女共同参画

昨年3月の大地震から1年が過ぎました。地震直後は、余震も続く中、皆が不安で不自由な生活でしたが、お互いを思いやる気持ちや協力し合うことの大切さを再認識しました。私自身は、地震のあと、相双地区の方の避難所だったビッグパレットで、子どものための遊び場のボランティアとして活動していました。その時に聞いたお話を紹介したいと思います。

リポーター 添田

職場に臨時保育所をつくりました

私は医療介護病院（郡山ビッグハート）に勤めています。病院では、地震直後、災害時の医療体制の確保のためには、まず病院スタッフが安心して仕事に取り組めることが大切だと考え、「子どもや家族のことが心配でたまらない」と右往左往する職員たちに、「とにかく一旦家に帰ることを認める。それから子どもを連れてくることを認める。夜泊まることも認める。」という指示をしました。これが、結果的に職員同士で子どもの世話をする「臨時院内保育所」となりました。現在「郡山医師会子ども文庫」と名付けている本棚が院内にあります。きっかけは、親の出勤に連れられて病院へ来てはいるものの、不安や心配を声に出せないでいる子どもたちのために、何かできることをしようと考え、子どもたちの「居場所」づくりとして「子ども広場」「子ども文庫」を作ったものでした。この「臨時院内保育所」は3月いっぱいまで終わる予定でしたが、子どもを連れて来ていた職員たちは、まだまだ心配だということ、その声によって、夏休みまで続きました。



臨時院内保育所



子ども文庫

また、3月15日頃、私は市内の助産師5名で結成した「リプロダクティブ・ヘルス※1を考える会」として、自転車での市内の避難所を回りました。市民の方、原発事故によって避難してきた方…。生後3週間の赤ちゃん、小さい子どもを抱えた家族、妊婦さん、そのそばに動物を抱えた家族…。混乱の様子を目の当たりにして、「子どもと女性を守らねば」、というスイッチが入りました。その後、郡山医師会と市の保健師さんたちの協力で「デイケア施設」を確保し、そこで妊婦や赤ちゃんのいる家族をサポートしてきました※2。

今は、女性と子どもを守る活動だけでなく、原発事故への不安から離ればなれで生活している家族の、特にお父さんのサポートもしていきたいと考えています。

※1：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）：生涯を通じて、自らの身体について自己決定を行い健康を享受する権利のこと。

※2：郡山医師会、市の保健師との協力で確保した「デイケア施設」に、妊婦さんや乳児のいる家族を避難所から集めて避難生活をサポートしました。

声をかけてよかった

3月21日、小雨の中、紙オムツの袋を提げて、幼い子の手を引くお母さんを見かけました。気になり声をかけると、大熊町から避難していて、買い物に出でたら帰る方向が分からなくなってしまうたとのことで、避難先まで送っていくことにしました。そこは、「デイケア施設」が開放されていて、大きな避難所から来た、妊婦さんや生後間もない赤ちゃんを連れた方達がいらつしやいました※2。避難所ではないので、食事は自分達で調達しな



読み聞かせボランティアをしています。

ればならないとのことでしたが、お世話をしている方々の自宅からの持ち寄り、卓上コンロにスーブが作られていました。私も食材や絵本、タオル、家にある考えられる物を届けました。

そして、孫のおもちゃを届けた時の、親子の笑顔…。あの時、思い切った声をかけてみて本当によかったと思っています。

いろいろなことがあったんですね。防災に限ったことではないですが、日頃から「男女共同参画の視点」はとても重要だと考えています。震災はもう経験したくないですが、復興、これからのま

リポーター 安藤・遠藤・芳賀・吉田

みな 男女共同参画の視点

「女性人材リスト」登録者募集

市では、市の審議会・委員会等の女性委員の割合を40%とする目標を掲げていますが、まだ十分ではありません。そこで、女性委員を積極的に登用するため、委員候補者を掲載した「女性人材リスト」制度を設けており、随時登録者を募集しています。審議会等は、経済、教育、福祉、環境など様々な分野があります。皆さまの知識や経験を市政に反映させる絶好の機会です、専門的知識や技能をお持ちの方はもちろん、市政に関心がある方、意欲がある方、ぜひご登録ください。まずは、男女共同参画課（電話924-3351）へお問い合わせください。（市ウェブサイト「女性人材リスト」で検索できます。）



大切です!

また、市民の皆さまの様々な意見や考えを市政に反映させる代表的な方法を2つご紹介します。

市民公募委員制度

市の各種計画の策定や市政運営に市民の皆さまのご意見を反映させるため、様々な分野の審議会・委員会等があります。委員は、専門的知識を有する方、実際に活動している各種団体代表者の方などに加え、市民公募委員制度を導入しています。選考方法は、テーマに沿った小論文、面接等です。

関心のある審議会・委員会等があれば、一度、傍聴してみてください。

パブリックコメント手続（市民の意見公募に関する手続）制度

市の基本的な計画を策定する際、計画案を市民の皆さんに公表して、郵送、FAXなどの方法によりご意見を出していただき、そのご意見を勘案して意思決定を行う制度です。

いずれも、募集の際は、広報こおりやま、市ウェブサイト等でお知らせしていますので、ぜひご利用ください。また、審議会・委員会等の開催予定は、市ウェブサイト等でお知らせしています。



困りごとはありませんか？ 相談無料

- 女性のための電話相談・ふくしま ☎0120-207-440（月）～（金）※祝日除く 午前10時～午後5時
東日本大震災以降、長引く避難生活や低線量被ばくの影響による不安やストレスを抱え込んでいませんか。女性の相談員が、ご相談をお受けします。福島県民のための電話相談です。県外へ避難している方も対象です。（主催：内閣府）
- パープル・ホットライン ☎0120-941-826 24時間フリーダイヤル
※毎週月曜午前10時～午後5時は、郡山市内にいる相談員がお受けします。
震災で困りごとを抱えたシングルマザーや女性たちの電話相談です。（主催：NPO法人全国女性シェルターネット）
- 女性のための相談日（予約制）
さんかくプラザでは、月1～2回、女性のための相談を行っています。実施日は、広報こおりやま、市内各施設のチラシ等でお知らせしています。

6.23(土)~6.29(金) 郡山市男女共同参画推進週間

川柳やフォトコンテスト、市民自主企画、講演会等を開催します。ぜひご参加・ご応募ください。

第9回 男女共同参画川柳コンクール

日常生活の中で、男女間の「あれ?」「どうして?」「ちょっと言わせて!」と感じていることを川柳にしてみませんか?

第8回(平成22年度) 最優秀作品

《一般の部》 取りにくい 育見休暇を 取り易く 鈴木 昇さん	《小学校の部》 おむつがえ いとこの家は 父がやる 浅見 楓斗さん	《中学校の部》 わたしやる それが参画 第一歩 佐藤 未菜さん	《高校の部》 洗濯物 干す母親に たたむ父 小野寺 葵さん	《親子の部》 愛情と いう名のスパイス 古内 雄大・古内あきこさん
--	---	---	---	--

- 応募資格/市内在住、在勤、在学の方
- 応募期間/5月14日(月)まで
- 応募方法/はがき・FAX・Eメール・または専用応募用紙で、男女共同参画課まで
TEL 024-924-3351・FAX 024-921-1340
- ★小中学校、高校及び親子の部へご応募いただいた方は参加賞があります。
- ※平成23年度は、震災の影響により川柳コンクールを実施していません。

優秀作品には、賞品あり!

表彰式は、平成24年6月下旬にさんかくプラザで行います。また、ご応募いただいた全作品をさんかくプラザに掲示します。

市民自主企画イベント

人権や男女共同参画に関する講演会、イベントを企画し、男女共同参画社会について理解を深めませんか?

- 対象/市内で活動していて、企画から準備、広報、当日運営等、自主企画が可能な団体またはグループ(講師謝礼等は市が負担します。)
- 募集期間/5月7日(月)まで
- 応募方法/男女共同参画課へ直接



第4回 家事する男はカッコイイ!! フォトコンテスト

男性の家事参加の様子を写真に撮ってみませんか?



第1回
第1回最優秀賞 天宮 陽子さん
「お手伝いありがとう」

第2回
第2回最優秀賞 影山 陽子さん
「パパに子供もママも甘えっぱなし」



第3回
第3回最優秀賞 橋本 昭治さん
「うまく出来たかな」

- 応募資格/市内在住、在勤、在学の方
- 応募作品/カラープリント2Lサイズ以上
- 応募期間/5月18日(金)まで
- 応募方法/郵送またはさんかくプラザ窓口へ持参
男女共同参画センター(さんかくプラザ)
TEL 024-924-0900・FAX 024-924-0904

講師を無料で派遣します!

男女共同参画学習サポート事業「さんかく教室」

「さんかく教室」には、「メニュー講座」と「フリープラン講座」があります。

「メニュー講座」は、テーマと講師が決まっています。人権の分野、男女共同参画の分野、それぞれ10種類以上のテーマをご用意しています。

「フリープラン講座」は、テーマと講師を相談して決めます。「会社の仲間研修会を開催したいけど、具体的なテーマや、講師はどんな人がよいか、どうしよう...」「学校の保護者で集まって勉強会を開きたい。」「地域の人が集まる機会に、勉強会もやってみたい。」など、お気軽にご相談ください。

メニュー講座の内容など、詳しくは、市ウェブサイト(「さんかく教室」で検索)をご覧ください。

また、男女共同参画課、男女共同参画センター、市内各施設等にチラシをご用意しています。

- 対象▶市内に在住・在勤・在学する方々を主体とした、概ね10人以上のグループ(政治及び宗教、又は営利を目的とした集会は除きます。)
- 会場▶市内のどこでも結構ですので、グループで手配をお願いします。(会場使用料等はグループのご負担となります。)
- 申込方法▶講師の日程調整が必要となりますので、講座開催予定日の1か月前までに、男女共同参画課へご連絡ください。

人権の大切さや男女共同参画について、「興味がある」「ちょっと学習してみたい」「もっと詳しく知りたい」...。そう思ったら、「さんかく教室」を活用してください!

利用者の声

「ワーク・ライフ・バランス※を考えよう!」

講師/五十嵐 敦さん(福島大学教授)



私たちは、会社の女性で集まって、業務向上について話し合う場を設けており、今回は「さんかく教室」を活用しました。講師の先生には、私たちに合わせて分かりやすく、冗談も交えながらお話いただき、「また受講したい」「とても楽しかった」など再受講を希望する声が多くありました。利用して本当によかったです。メニュー講座内容のどれもが、業務向上に生かせるものばかりなので、また利用したいと思います。

※ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)...人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等が、自らの希望に沿った形でバランスよく行える状態。

「心がつながるコミュニケーション!」

講師/前田 文さん(アズ・コミュニケーション)



職員の研修の場として、昨年に引き続き利用しました。保育所の仕事においてもどんな場面でも「コミュニケーション」の大切さを感じていて、関心がありました。今回は、テーマ毎に2、3人の組になって実技を行い、「楽しい雰囲気ですと相手も話したくなる」「相手を受容する」など傾聴について学ぶことができ、子どもや保護者とのかかわり方に大きなヒントを得ることができました。

「女性のための日曜大工講座」

講師/大城 昌孝さん(郡山建設組合)



「やってみたい」このメニュー講座に目が釘付けになり、申し込みました。ワクワクしながら木材に曲尺をあて、真剣に線を引き、真新しい鋸を手に、さあ...。が、鋸が引けない...参加者は、初めて鋸に触れた人、中学校の授業以来の人、とっても久しぶりという人など様々。技術・家庭科の授業が男女共修の世代と男女別の世代が混じっていることを再認識し、作業に熱中。汗だくになりながらとても親切にご指導くださった先生、ありがとうございました。

お問い合わせ

TEL.024-924-3351 FAX.024-921-1340
〒963-8601 (住所不要) Email: danjokyoudou@city.koriyama.fukushima.jp

第10回 郡山市男女共同参画フェスティバル 報告

主催：郡山市・郡山市男女共同参画フェスティバル実行委員会



実行委員の皆さん

2/24^金~26^日 会場：郡山市男女共同参画センター (さんかくプラザ)

2/25^土 オープニングセレモニー

●郡山市民の歌 斉唱
ハートフル・バイオリン・アンサンブルの演奏に合わせて「郡山市民の歌」を斉唱しました。

●作文コンクール優秀者表彰
自分らしく生きるための作文コンクール優秀者の皆さんを表彰しました。



▲原市長あいさつ
竹信 三恵子

▲青木実行委員長あいさつ



最優秀賞 石塚 望咲さんの発表

- 最優秀賞
石塚 望咲
- 優秀賞
十文字 希果
橋本 公子
芳賀 樹也
小林 加奈 (敬称略)

2/25^土 震災でなぜ女性支援が必要なのか 講演会

ジャーナリスト・和光大学教授
竹信 三恵子 さん

《講演要旨》

朝日新聞社を退職された3月に大震災が発生し、その翌月には、大変苦勞されながら郡山入りし、避難所などの現状を取材。まだまだマイノリティである女性の災害時の問題点・対策についてお話しされました。

「母親だから…」「女だから…」と、イメージや偏見で我慢を強いられ、また、女性は「支援する側」「ケアを提供する側」との固定的な考え方の位置付けから、声を発しにくく、ストレスを溜め込んでしまう、などの問題点を指摘。

復興のあらゆる場に女性の参画促進が必要であり、両性の知恵が生かされ反映されるためには、意思決定機関に、男女がともに参加することが大切であること、そして、「弱者への慈善ではなく、被災者の自立を助けるための支援」こそが必要であると、熱く語られました。



2/26^日 ふれあい発表会

利用団体による舞踏・楽器演奏等の発表

参加団体 ※発表順

- ①フルートアンサンブルドルチェ
- ②華翔クラブ ③華の舞
- ④ハワイアン・フラ愛好会
- ⑤麓山ジャズダンスクラブ
- ⑥あじさいフォークダンスクラブ
- ⑦静山流詩舞静慧会 福島県本部



2/24^金~26^日 市民自主企画

- ①「チェルノブイリから福島を考える」
平和と民主主義を守る女たちの会(鳩の会)
- ②「ジェンダーって何？
～カルタを体験しながら考えてみませんか？～」
NPO法人 市民メディア・イコール
- ③「歴史の中の女性の位置」
まなびの会
- ④「ドイツの現状報告～震災と女性たち～」
(社)国際女性教育振興会福島県支部こおりやま



震災支援コーナー

マフラー、くつしたカバー、アクリルたわしなどを世田谷のニットクラブや全国の女性会館などから御支援いただいた毛糸や編み棒で、来場者の皆さんに編んでもらいました。
できあがった作品は、市内の仮設住宅で暮らす方々へ贈りました。



展示コーナー

利用団体等の研究成果発表展示



茶席コーナー

託児(保育クラブ)